

スポーツ選手の膝内側半月板単独損傷に対する 半月板縫合術の検討

○井石 智也 (いせき ともや) (MD)¹⁾, 中山 寛 (MD)¹⁾, 柏 薫里 (MD)²⁾, 山口 基 (MD)¹⁾,
吉矢 晋一 (MD)¹⁾

¹⁾ 兵庫医科大学 整形外科

²⁾ 明和病院 整形外科

【目的】

スポーツ選手の膝内側半月板単独損傷に対して行った縫合術について検討したので報告する。

【方法】

スポーツ外傷にて受傷し、半月板縫合術を施行し、術後1年以上の経過観察が可能であったスポーツ選手の内側半月板単独損傷18例18膝(男性13例, 女性5例, 平均年齢23.4歳)を対象とした。

【結果】

断裂様式は縦断裂4膝, 横断裂1膝, バケツ柄断裂8膝, 複合断裂5膝であった。縫合方法はInside-out法12膝, Outside-in法1膝であった。平均Tegner scoreは術前 6.6 ± 1.6 点, 術後 6.2 ± 1.7 点, 平均Lysholm scoreは術前 74.3 ± 14.3 点, 術後1年時 98.2 ± 2.2 点であった。ローゼンバーク撮影において計測した平均内側関節裂隙は術前 4.1 ± 1.2 mm, 術後1年時 3.9 ± 0.9 mmと変化を認めなかった。競技復帰時期は術後平均5.5ヶ月で, スポーツ復帰率は77.8%であった。再断裂を2膝(11.1%)で認めた。

【結論】

当科での比較において, 外側半月板単独損傷では様々な断裂形態をとる事が多いのに対し, 内側半月板単独損傷は縦断裂とバケツ柄断裂が12膝(66.7%)と多かった。バケツ柄断裂の2膝が再断裂(再断裂時期: 術後2年6ヶ月, 術後2年2ヶ月)となった。半月板切除後の関節症性変化の出現は周知の如くであるが, スポーツ選手に対する内側半月板単独損傷は再断裂率や復帰までの期間を踏まえて, ケースバイケースに検討する必要があると考えられた。